

第3期四谷地区協議会会議録

分科会名	第1分科会	開催回	第2回
開催日	平成22年5月18日(火)		
出席者	区民 10名	職員 他	出張所職員1名 東京都観光アドバイザー高橋 一夫先生 東京都観光課職員 1名 レガス新宿 観光課職員 2名
主な協議 と決定に ついて	新宿区の考える観光ビューロー計画について		
	観光まちづくりについて		

1、テーマ別活動報告 他

玉川上水 ・通水式式典（4月22日）の報告

1時間の厳かな式典 報道関係が多く来ていた。羽村市市長も参加され、改めて玉川上水の歴史的背景を感慨深く感じた。

新宿の新しいオアシスが誕生したことを実感した。

地域バス

報告（進展）なし

四谷を識（し）る勉強会について

検討中

2、新宿区の考える観光ビューロー計画について・・・レガス新宿観光課職員 説明と質疑応答

説明資料参照

未来創造財団の取組みについて

文化・芸術、特に観光を新宿区より引き継ぐこととなった。

1、区内文化資源ネットワークの推進

2、地域の魅力の内外への発信 （観光課メイン事業としていく構想がある）

観光情報の発信

新宿ぶらり探訪

観光案内制度の整備

レガスガイドボランティア（歴史博物館ボランティアガイド講習を受けた登録者）

新宿シティプロモーション推進協議会（観光ビューロー設立準備委員会正式名称）

の設立 ……来月6月より推進協議会組織の準備会を行なう

【主な計画について】

情報発信機能

- ・文化人材産業・・・様々な情報を発掘して発信し、新宿に人を呼びこむ
- ・新宿区区内で滞留していただき地域で消費していただく。
- ・新宿の魅力を発信するために地域の協力なしではできない。

・繰り返し訪れたい魅力のPRを、お知恵を拝借しながらできるように推進していきたい。

観光に関するイベント

詳細は今後協議会で検討されていく

質疑応答

リーダー：本日は時間の制限もあり、『観光』がレガスに移管された目的をかいつままでお話ししていただいた。地域がこの事業に連携していくことが望ましいと考える。

質問：協議内容のフィードバックは、どのようにされるのか？

レガス：特に（広報などで）考えていないので、随時呼んでいただければ情報提供させていただきます。

質問：地域の声はどのようなところが吸い上げてくれるのか？

レガス：新宿区では地域文化部 文化観光国際課があるが直接レガスが携わる。
レガスは地域（地区協議会）と連携をしていく事業がある。

質問：歩きたくなる街と言うが新宿は広い。点と点（町と町）をつなぐもの（手段）は何を考えていますか？公共機関だけでしょうか？

レガス：・・・手段については現在考えていません。地域ごとにわけるのはなくテーマ（ストーリー）を追えるようなコースを考えていく構想を持っていますが・・・。

意見：環境を考えて、自転車での移動もよいのではないか？

レガス：確かにそれもいいと思います。

意見：地域の魅力は、やはりまちの人（地元住民）に聞いて欲しい。

レガス：皆さんは地域発の情報を待っている。力を借りたい。

意見：情報はだけでなく、それを磨いて欲しい。

意見：私たちも四谷の町を歩いているが、レガスでもよくコースを調べていると感じた。

レガス：ありがとうございます。けれども、（今のうちに）ただ案内するだけでなく、記憶と織り交ぜながら案内していただけるとよいガイドができると思います。

例えば新宿区のガイドでは地域のお店情報は（行政なので）できないが、レガスの案内ならば、発信可能です。そのようなメリットもあります。

質問：レガスと神楽坂のNPOとのつながりは？

レガス：観光案内制度の整備の中で「まち歩きガイド運営協議会」がある。4グループが登録していてその中のひとつが神楽坂のNPO。レガスで案内希望のニーズを聞いてNPOに斡旋している。

質問：四谷がボランティアガイドを立ち上げた場合ノウハウの享受などを協力してもらえるのか？

レガス：サポートさせていただきます。

意見：この事業は、わかりにくい事業なのでもっとPRして欲しい。

また、将来的には観光案内所に説明してくれる「人」(従事者)がいるようにして欲しい。

レガス：確かに36箇所観光案内拠点はマップ置き場となっている。

本来的には案内機能を持たないと観光案内所とは言えない。マップ置き場ではなく人を配置した拠点を作れるよう検討していきたい。

複数意見：観光案内所の設置を是非望む

リーダー：区が管理している施設でもらえれば？

意見：そんなに、たくさんは必要ない。せめて新宿駅前に1箇所あればよいと思う。

意見：第1分科会では、活性化した意見を話せる。それは段階を経て活動してきたからである。ボルテージが上がってきて町歩きガイド実行委員会の話しも出ている。今説明いただいた事業といい関係を築けると思う

リーダー：今後ともよろしくお願いします

レガス：ありがとうございました。

3、観光まちづくりのに関する協議（実行委員会組織の立上げに関する意見交換）

先生 協議会で意義を決めていただき、実行委員会で細則を決めるにしても以下の様な骨格は協議会の中で話しあっておいてよいのではないのでしょうか？

- 1 ガイド実行による地域の魅力紹介をする、メリット（とは何か）の整理
- 2 ガイド自身の生きがい、やりがい、を見出せる組織にするにはどのような条件が必要なのか？
- 3 訪問客のニーズはどのようなものか
- 4 旧来（数代前から四谷に住んでいた）の住民だけではなく、四谷地域近年引っ越してきた方が地域への関心を高める機会にもなるような

委員：ガイド料金は有料と無料のどちらがいいですか？

先生：無料の団体も、観光協会などが一定のバックアップ（収入）があるところが多いです。

ガイドする団体でも、資料を揃えたり、勉強（講師）をしたい希望も出てくる。そのような費用を賄うため、有料としている団体もある。一方、ガイド料金を個人の収入にするのか、団体の収入とするのか、議論していく余地がある。有料＝継続性につながる。

どちらにするのか、皆さんでガイド実行委員会の意義を思いつくままに話していただいた中で決定していけばよいのかと考えます・・・

委員：例えば、ローマは観光で食べている。どの店でも観光の説明ができるくらい皆がくわしい。四谷地域でもそのような風になるとよいと思う。

先生：そのようなお話は良いお話かと思えます。

自分が関与しています、和倉温泉でもこのような話しがありました。

「岐阜県から毎週数人ずつ、合計5000人が和倉温泉を訪れて観光させて欲しい。しかしその条件として一本杉商店街で受けて欲しい」
一本杉商店街では、地域連携としてお店が観光客のニーズにあう様々なサービスを行なっています。それが評判となっています。

委員：それから、四谷はいわゆる新住民が多い。昔から代々住んでいる方との溝も感じる時がある。

先生：そのような課題を解決するためにも実行委員会組織が「新しい転入者が地域に溶け込むための観光まちづくり」に取り組む機会になるとよいと思う。新しい住民との輪が広がると思えます。

リーダー：それがむずかしい・・・地域の住民がなかなか壁を越えられない・・・。

先生：例えば実行委員会組織で活動するために、まず町会に入ってくださいことを条件としてもいいのではないのでしょうか？

委員：それも一つの案としてよいと思う。

委員：わが町会ではとても町会役員が少ない状況です・・・ハローワークに登録するような(60代くらいの元気)な方に来て欲しいが望めない・・・現実的には町会加入が条件だと無理ではないかと思えます。

委員：ガイドの年齢は、中高齢者が多いのか

先生：年代は様々・・・例えば長崎では30代のガイドさんがとても人気です。

(声の小さい人のためにも)ハンドマイクなど、アイテムの活用があると不足を補えます。

委員：老齢の方々に元気になっていただける「生きがい、やりがい」を見出して欲しい。

先生：そのためにも、連絡方法一つにしても一人に負担がかかりすぎるとむずかしい。

事務所がないと困難なことがある。個人の携帯電話で受けるようでは大変です。

リーダー：集会場所・・・事務所が欲しいところだと考えます・・・

先生：そして組織の中では、(役割分担として)ガイドだけ専門の方もいれば、予約の係の方、事務方も必要です。組織の アサインが必要となるでしょう。それは、実行委員会に組み立てをお任せして、協議会では報告を受け、なんらか主旨に反するようなこと問題が生じる時に指摘していけばよいと思えます。

アサイン assign とは、元来は「定義」「割り当て」などの意味。転じて、機能などの追加一般を指す。

委員：観光にはいろいろな方々に来ていただきたい。先ほどの自転車での移動の件ですが、魅力的だが四谷では（近隣の道路事情を考えると）むずかしいと思う・・・。

委員：確かに難しいでしょうが、いろいろな試みをしてみる価値はあると思う

先生：例えば、に沿って「四谷のスイーツめぐり」テーマのように来街者が魅力を感じるテーマを考えてはいかがでしょうか？

委員：テーマといえば、四谷連合のお祭りを紹介するような案内も面白いのではないか。（広い範囲を移動するだけでなく）一つのイベントに特化してガイドしてはどうか・・・それを自分たちがしなくてはいけないのは無理ですが・・・

先生：そうですね、観光ガイドでは、歴史ガイド一辺倒のような、頭で考えることはリピートしないことが多いです。温泉・食事等、実体験体験できることはリピートして訪れたい要因になりますので、その地域ならではの体験は貴重だと思います。

リーダー：地区協議会は行政の支援でやっている。実行委員会組織をいずれ、分離することも視野に入れたい。

先生：観光協会＝協会員 行政＝公共 といった構図があります。有料でしていくことで自立できれば、行政が主体でない団体ならではの意見をぶつけられますね。

委員：ただ（有料化しても）一番大切なのは利用側に立った視点で考えていくべきではないかと思います。

先生：そうですね、ガイド料金が1,000円から3,000円ならコスト的に安い。旅行会社の下請けをすることも（収入源として）考えられます。しかし、そこで線引きすべきかどうかは、管理者側（協議会）で考えるといけない。

リーダー：訪問客の視点を大切に、自分達のルールを明確にしていくことが必要です。

委員：アサインしやすい環境（観光事務局設立）をどうしていくのが課題とを感じる。

先生：事務局としての仕事も必要であり、地域の人とも仲良くやっていくことが大切。ガイドの仕事を分配することが同じ人に偏ることもある。どのような理由により誰にお願いするのか、振り分けも検討していかないといけない。

リーダー：ガイド手法は実行委員会でもらうことにして、我々のビジョンを明確にしないと・・・

先生：先ほどの、ビューロー組織構造はよい話。プロモーションをレガスでもらえる。そこは任せられます。

本日出た皆さんの意見の中、実行委員会組織の骨格になるテーマ・（委員会設置）目的をいくつかリーダーでまとめ、次回皆さんで確認してもらえばよろしいのではないのでしょうか。実行委員会ではこのテーマをはずさないで細目を決めてもらう。その上で実行委員会が定期的に報告をしてもらえればよいのではないか。それが観光まちづくりビジョンのたたき台になってくるのではないか

リーダー：今日の話しをまとめます。そして実行委員会組織に動いてもらうこととします。
実行委員会では、決定事項を定期的に協議会にフィードバックしてもらい検討していく。

一同：承認

リーダー：今後、実行委員会組織の中で先生のアドバイスをしていただきたい。
委員長に推挙した人を役員会で報告します。

特記意見

お祭り・・・来年連合のお祭りがある。そのような特色ある行事を紹介していくのも良いのではないか。

4、他

お宝さがし実行委員応募状況の確認（締切5月25日）

次回日程	<ul style="list-style-type: none">・ 第1分科会 6月15日（火）18時30分～四谷特別出張所会議室 事務局よりお願い 配布済みの昨年度の報告書、講師作成資料、会議録は必ずお持ちください。・ お宝さがし実行委員会 6月1日（火）18時30分～四谷特別出張所会議室
------	--